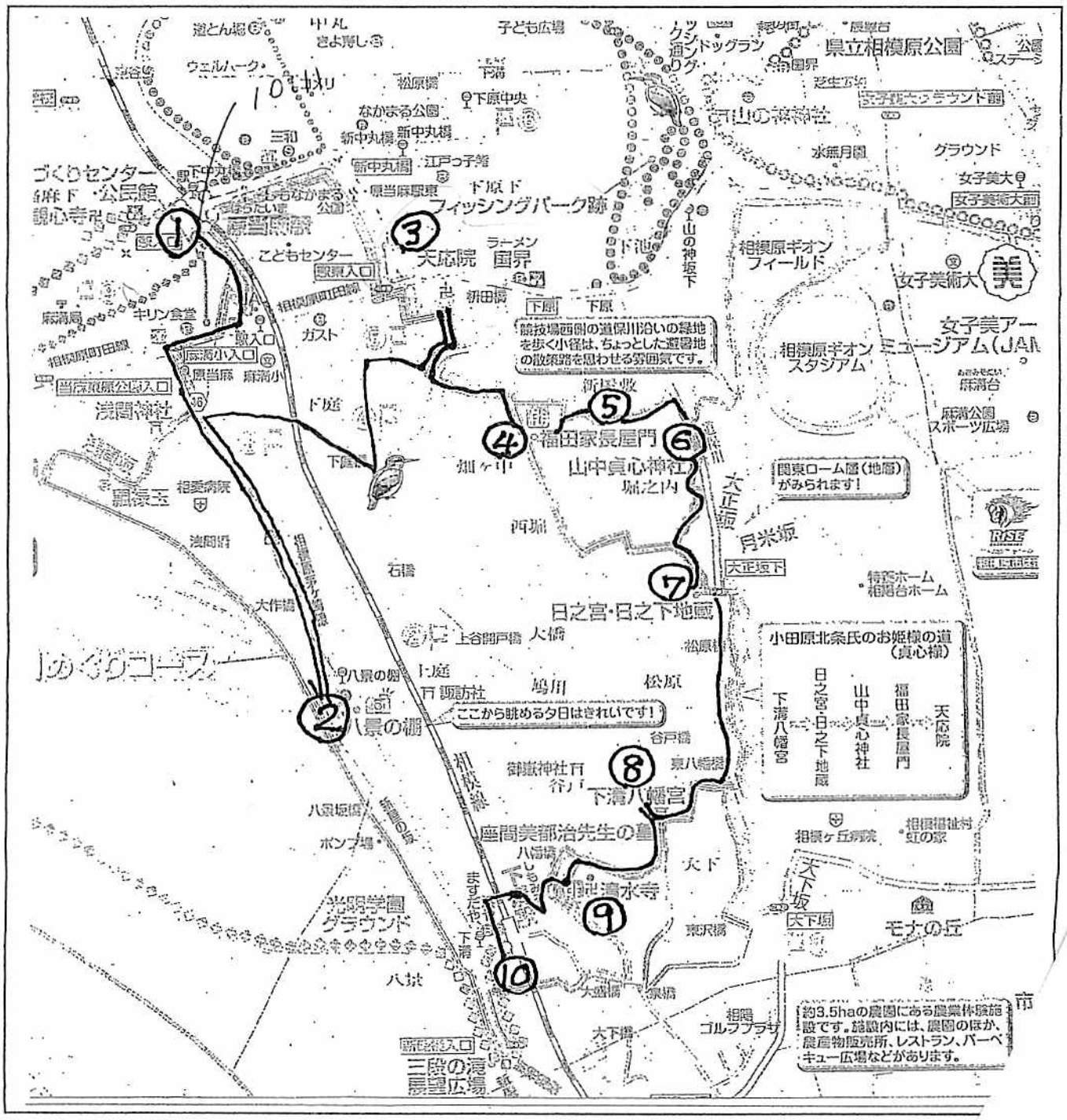
平成２８年５月史跡めぐり

八景の棚と周辺史跡・文化財

－北条氏照娘・貞心尼を中心に－

解　説　と　案　内　福田家当主・福田弘夫氏

八景の棚と絵師井上五川　県央史談会・荻田豊氏



平成２８年５月８日

県央史談会（担当　小島正　本杉茂）

「八景の棚」と周辺の史跡・文化財めぐり　　福田弘夫

－ 戦国時代の北条氏照娘・貞心尼の館跡「堀之内」の伝説など －

1. 実施日時　平成28年 5月 8日(日)　午前10時 ～ 午後3時30分 頃まで

2. スケジュール　（ 当日変更する場合があります。敬称略 ）

① 10:00　JR 相模線原当麻駅 西側下広場 集合・概要説明　(トイレ)

:15　JR 相模線原当麻駅　出発

② 10:25　八景の棚 (1)最近は厚木方向の景色(夜景) (2)八景の棚の由来

:55　(3)さいかちの木 (4)横穴と武器など

③ 11:05　天応院 (トイレ)　(1)貞心尼中興の寺(北条氏家紋、三つ鱗が寺紋、青山忠俊

:35　(三代将軍・徳川家光の守役、苦言を呈しこの寺に蟄居)の墓

(2)明治初期に「県下第二十大区会所」27ケ村の事務取り扱い

(3)麻溝小学校の前身の「下溝学校」もあった

(4)溝呂木城(『皇国地誌』、横溝氏、正応年中(1288－1289)

④ 11:45 福田家長屋門 (市登録有形文化財、近世末)

12:45 (1)貞心尼の位牌 戒名「掩荘 霊照院中室貞心大姉　淑位」、右に「天正十六年戊子年」、左に「八月二十六日 酉刻」と死亡月日と時刻。裏は「施主 福田兵庫助」 (2)蔵のものを博物館に寄贈 (3)家の棟札(明治42年建)

(4)昼食 (トイレ)

⑤ 12:50　福田家の墓 (1)福田兵庫助の墓 (『新編相模国風土記稿』に貞心尼に従った)

13:10 (2)重郎兵衛の墓 (18 世紀の俳人、白鷺軒一蓑、下溝村名主、五柏園丈水後輩)

(3)福田要助の墓 (明治初年の国会開設運動、高座郡下溝村戸長)

(4)福田島吉の墓　(明治の武相困民党の監督、青柳寺に記念碑(大畑先生)

⑥ 13:20 堀之内 山中貞心神社(やまなか・ていしん)

13:25 山中大炊助の妻、北条氏照の娘の舘、堀之内(稲荷神社も)

⑦ 13:30 (1)日之宮社 (貞心尼が勧請)

14:00　(2)日之下地蔵 (貞心尼が娘の供養のため)

⑧ 14:10 (1)不動明王坐像 (市指定有形文化財、八幡宮の別当寺の大光院の本尊)

:35　(2)下溝八幡宮 (貞心尼の舘の裏鬼門・南西にある)　(トイレ)

⑨ 14:40 清水寺の墓地　(1)宝寿堂樹徳の墓(小山儀右衛門、1740年頃の俳人、下溝

15:10 名主) (2)座間友三郎の墓(明治の武相困民党の会計、他に小山万吉、小山勝右衛門) (3)座間美都治先生の墓

⑩ 15:20 JR 下溝駅 解散 (海老名方面 15:15、15:35、15:54)

● 内容について

②八景の棚 (1)最近は厚木方向の景色(夜景) (2)八景の棚の由来;「八景の棚」と名づけられたのは大正から昭和初期頃に桜(大正天皇の生誕記念)の名所として賑わい、道沿いには何軒もの料理屋が軒を並べ、相模川を見下ろす一角はその景観の良さから「八景の棚」と名付けられた。八景はいうまでもなく「はけ」に好字を当てたもので、大正時代に俳人が使いはじめたと云われている。その後、昭和１０年に新聞社による「神奈川名勝地４５佳選」に「水郷田名」とともに入選し、その記念碑も立てられている。しかし、立地条件からして災害も起こりやすく、大正１２年(1923) ９月１日の関東大震災では３軒の人家が崖下に崩れ落ちている。

(3)さいかちの木 ;武田勢が小田原攻め時、サイカチ・サキガチ・先勝の縁起をかつぎ武士を鼓舞した為と伝えられている。(なお、①はけ道(八王子道)」の目印、 ②当麻と下溝・磯部の境界の木であったかとも考えられる)。その後、三増合戦。

(4)横穴と武器など;武田軍との戦いの跡の武器や遺体などと伝えられていた。相模鉄道(株)が茅ケ崎から橋本までの鉄道開設時にＶ型に地形を開削しその土砂を窪地に埋設した時に三段の堰周辺からも刀や長刀、弓矢の鏑(かぶら)の錆びたものが多数発見されたとのこと。横穴陣地は７世紀後半の横穴式古墳

③ 天応院

(１)「戦国時代の北条氏照娘・貞心尼の館跡 堀之内」について

下溝堀之内の山中貞心神社に祀られている貞心尼は、400年以上昔の戦国時代の小田原城主北條氏政の次弟八王子城主北條氏照の娘で、山中大炊助に嫁ぎ、その時結婚の化粧田として溝(下溝・上溝の地域)を与えられた。戦乱で荒廃していた天応院に寺領を寄進し、再興した。貞心尼は北條氏が滅びる2年前の天正16年8月26日(1588年)に亡くなり、天応院に墓がある。堀之内には貞心尼が住む以前から武家の館があったようで、四方が道保川の流れを利用した掘に囲まれ、内部の道は攻め難いように曲がり、西側の大手門に「大橋」、南側には「松原」があり、元は「的原」であったようだ。堀之内南西の八幡神社、北東の山の神神社は鬼門除けとして設けられたとの伝承もある。貞心尼が嫁いだ時、福田兵庫助忠光、井上図書が付け人となり、貞心尼が死亡し、天正18年に北條氏が滅んだ後、下溝村の住民となり、堀之内と新屋敷に住んだ。(別紙『新編相模国風土記稿』下溝村、上溝村を参照)

(2) 天応院は曹洞宗の寺院で、石雲院(静岡県榛原町)の末寺で、山号を龍淵山といい、虚空蔵菩薩が本尊である。開山は季雲(大永6年(1526)没)、中興開基を北条氏照の娘貞心とし、慶安3年(1650)に9石7斗の朱印地が与えられている。季雲の弟子天叟順孝(天文元年(1532)没)が明応4年(1495)に再建。中興の貞心尼が寺領を寄進して再興。3代将軍徳川家光の養育係り青山忠俊により、再中興。忠俊は家光の勘気を受け謹慎、当寺の前に仮居住。並んで5つある墓の一つが貞心尼の墓、忠俊の墓。明治時代に20大区(旧相模原市など)の役所。麻溝小学校の前身の「下溝小学校」も開設された。

④ 福田家長屋門; 市登録有形文化財(建造物)平成14年4月1日、近世末頃の建築と推定され。大きさは桁行7．5間(約13．5m)、梁行(はりゆき)2間(約3．8m)で、上部に2階を設けるため、軒高は15尺(約4．5m)と高い。市内では19世紀から多く登場する。屋根は修復してあるが、当初は茅葺であろう。 ○主屋;明治43年の建設、隣接の建物は当時の蚕室の一部。

○蔵;平成24年に蔵の収蔵物などを相模原市立博物館に寄贈、展示

○貞心尼の位牌; 位牌の表には戒名「掩荘 霊照院中室貞心大姉 淑位」、右には亡くなった年号「天正十六年戊子年」、左には死亡した月日と時刻「八月二十六日 酉刻」。裏には「施主福田兵庫助」、その右上部に「導昊家臣」とある。意味は、貞心様は天正16年(1588)8月26日の夜7時頃に亡くなられ、「霊照院中室貞心大姉」という淑やかで上品さの位の戒名を授けられた。追善供養、福田兵庫助。

⑤ 福田家の墓 (1)福田兵庫助忠光 ;『新編相模国風土記稿』貞心尼に従った。浜名豊後守(鎌倉『大巧寺文書』１５７５年に大巧寺に土地を寄進した北条氏政家臣) の次男。

(2) 福田重郎兵衛 ; １８世紀の俳人、白鷺軒一蓑、下溝村名主。宝寿堂樹徳(小山儀右衛門、1740年頃の俳人、下溝村名主)、五柏園丈水 (厚木市依知村猿ヶ島名主、門人千人、当麻の無量光寺に五柏園丈水の句碑、福田家と同じ檀家寺) らの後輩で、俳諧を楽しんだ。

(3)福田要助;下溝村戸長、明治16年横浜の裁判コレラ死去。明治13年国会開設運動に参加(大和市上和田の「小川正人氏記録」)。相原村 神藤利八、中新田村 今福元穎、九沢村 山本作左衛門他

(4)福田島吉; 明治17年の武相困民党の監督、上鶴間の青柳寺に記念碑あり(大畑先生)

⑥山中貞心神社 ; 平成21年に再建され、社殿の中には貞心尼の祠、稲荷神社の祠がある。

貞心尼の夫の山中頼元は後北条氏の御馬廻衆寄親(重臣)を務めたようだ。仮名彦四郎、次に官途名大炊助。父頼次は川越衆の寄親の一人であったが、頼元の代の天正十年(1582)頃には、独立した軍団になり、小田原城に配属。氏照の婿になったからであろう。相模溝上下(油井領の一部)を、化粧料として譲られている。『所領役帳』には「今は中山(山中の誤記)彦四郎」と後代の注記があり、頼元であろう。

⑦(1)日之宮神社; 元亀元年(1570)5月に山中貞心が勧請し、下溝村の井上図書こと当時松左衛門、井上三郎左衛門こと当時伊兵衛他の名がある。(『相模原市史 第５巻』 P594)

(2)日之下地蔵;松原・堀之内・大橋・西堀自治会で供養。天正年間頃、貞心尼が幼くして亡くなった我が娘の松姫の供養のために建立。子供の成育を祈念する子育地蔵尊。干天の時の雨乞い地蔵尊。

⑧(1)不動明王坐像; 八幡宮の鳥居右の小祠、市指定重要文化財。八幡宮の別当寺・大光院の本尊。胎内銘によると享保9年(1724)に大光院の常照の依頼により鎌倉扇ケ谷の仏師後藤左近藤原義貴が製作。明治初期の神仏分離令で大光院が廃寺となり、現在の場所に、修復されて安置。

(2)下溝八幡宮 ; 創建時期は不明 伝承によると、溝村が上溝と下溝の両村に分かれた天文年間(1532～55)に上溝村の亀ケ池八幡宮より分霊を受けて建立した。その位置が娘貞心尼の屋敷の堀之内の裏鬼門、つまり南西方面にあたるこの地に神社を設定したのではないかとも考えられている。

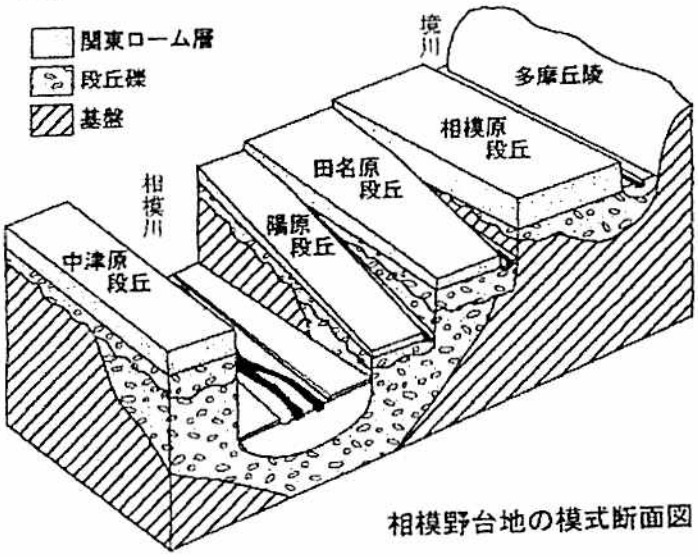
⑨清水寺の墓地 (1)宝寿堂樹徳;小山儀右衛門、下溝村名主、1740年頃の俳人

(2)座間友三郎;明治の武相困民党の会計。この地域には周旋の小山万吉、小山勝右衛門

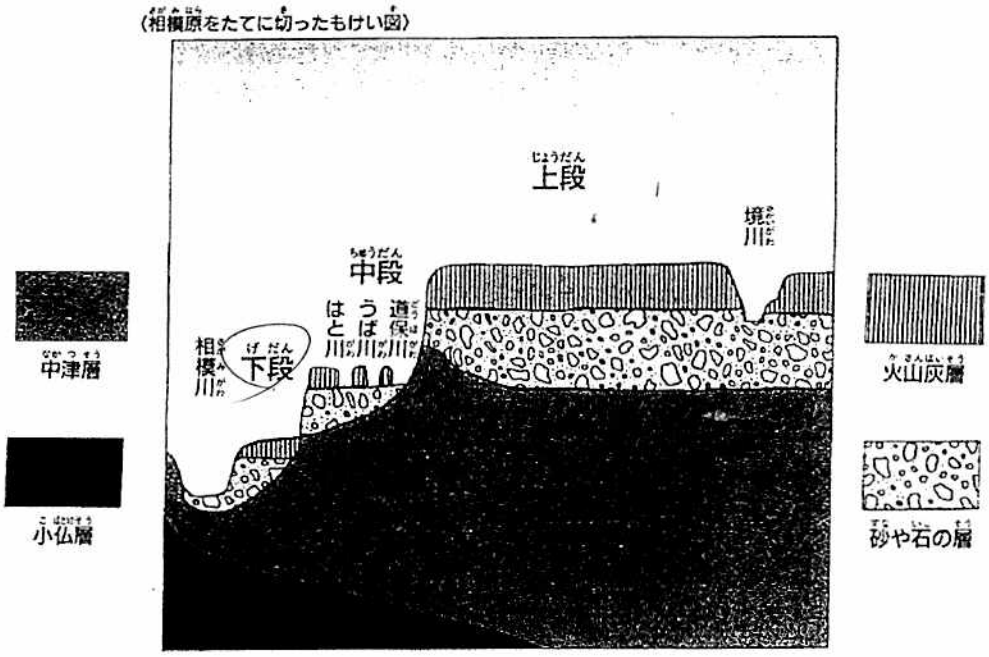
(3)座間美都治先生;『相模原市史』など郷土史研究。教育者。座間家の先祖が小山家の番頭として働き、明治時代に小山家の古文書などを引き取った。

●相模川が作った地形

相模原の地形は、地名にもある通り、「原」と呼ばれる平らな土地が続く部分と、急傾斜をおりる「坂」が特色で、段丘と呼ばれている。麻溝地区には、高い方から順に相模原面（上段）、田名原面（中段）、陽原面（みなはら、下段）と呼ばれる段丘がそろっている。いずれも相模川が運んできた砂礫層の上に箱根火山や富士火山から噴出し風で運ばれて降下した厚いテフラ（火山灰や軽石など）が積もって形成された。上段ほどテフラ層が厚く堆積しており古い時代にできたものである。上段と中段の境、中段と下段の境は急傾斜を成しているために、多くの坂道がある。今の相模川が氾濫を繰り返して作った低地は主に水田として利用されている。山葵田が多くあった。



相模野台地の模式断面図

● 道保川の水源

相模原の地面の下には、海の中で積もってできた古い地層（中津層）がある。約３４０万～１８０万年前につくられた地層で、中津層をつくっている砂や泥は粒が細かいため、水を通しにくくなっている。このことにより、この層の上の部分に降った雨が浸み込んで地下水が貯えられ、中津層との境目から、水が湧き出しているところが市内各地見られる。道保川の水源は、道保川公園付近から湧き出る地下水を集めたものである。